

郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年4月24日現在

今月の重点活動

■だいこん 令和2年産のだいこん生産がスタート

4月15日から郡上市高鷲町では、今年の「ひるがの高原だいこん」の播種作業が始まった。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、産地全体で中国人実習生13名が来日できず、労働力不足のため作付け面積を前年より減らすなど不安なスタートとなった。

そんな中、農業普及課では関係機関と連携し、不足した労働力を補うために、スキー場など地元観光業や岐阜大学生に対して積極的に募集活動を行ってきた。

その結果、他産業から農家で働きたいという応募が数件出てきており、4月中旬から労働力の確保が進みつつある。

今後、国・県の支援事業の活用を関係機関と検討しながら、労働力確保だけでなく、それを補完するスマート農業技術の導入も積極的に支援する計画である。



【始まっただいこん作業】

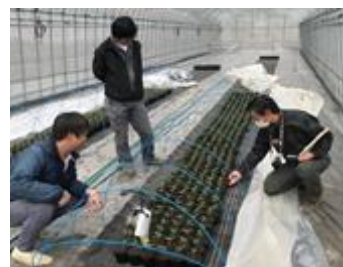
多様な担い手づくり

■夏秋トマト 「郡上トマトの学校」栽培研修会を開催

例年「郡上トマトの学校」では、定植前に普及指導員を講師とした座学研修会を開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、4月から室内の座学をほ場での研修に切り替えた。

研修では、お互いの距離に注意しながら、普及指導員から定植後までの気温を想定して、計画的に作業を行うことなどトマトの苗を見せながら、研修生に講義を行った。

農業普及課では、作業ごとに進め方や要した時間を研修生自身に記録させ、管内のトマト生産者と比較・意見交換するなど、自ら効率の良い作業の進め方を組み立てられるよう様々な工夫をしながら指導に取り組んでいく。



【苗を見せつつ講義】

売れるブランドづくり

■大麦 高品質、安定生産を目指して

郡上市内では、営農組織において稲作の補完品目として大麦を栽培しているが、さらなる高品質・安定生産を目指すため、新たに品種「ファイバースノウ」の導入を検討中である。

農業普及課では、当地での品種特性を把握するため、営農組織の協力のもと、11月上旬の播種以降、定期的に生育調査を行っているが、4月14日の調査時には出穂が確認されるなど、これまでの経過は従来品種とほぼ同等の生育状況である。

今後は、病害の発生状況、坪刈りによる収量性、品質面などの調査を行い、品種特性を把握し、従来品種と比較して有望度を判断する。



【出穂期を向えた大麦】